

Symphony No.9

鎌倉の第九

平成15年度 鎌倉市民「第九」コンサート
ベートーヴェン:交響曲 第9番 二短調 作品125(原語上演)

2003 12/21(日) 15:00開演

鎌倉芸術館 大ホール

O Freunde nicht diese Töne! Sondern laßt uns
angeheimere ausschinnen und frohlocken!
Freude, schöner Götterfunken! Facit an
deine Zauber binden wieder, Was die Mode
stengelt; Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flügel weilt. Wenn der große Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein, Wer ein solches
Wort erlangen, Wähe seinen Jubel in der
Lust: Nur eine Seele dem nennt auf den Erden
rund! Und wer's nie gekonnt, der stehle Wemem
sie aus diesem Band. Freude trinken alle Wesen
An den

Freuden der Natur. Alle Guten, alle Bösen
folgen ihre Rosenzahn. Küsse gab sie uns
und Reben. Einem Freund, geprüft im Tod,
Wollust ward dem Wurm gegeben. Und der
Cherub steht vor Gott! Froh, wie seine
Sonne strögen Durch des Himmels
pfeifigen Plan. Laufet, Brüder, eure
Bahn, Frei, wie ein Held zum Siegen. Seid
umschlungen, Millionen! Diesen Kuß der
ganzen Welt angehend! Die Welt ist
ein großer Saal, und alle Menschen
wollen ihn stützen. Und der Millionen
Ährte die den Schöpfer. Wähe! Such!
ihn über'n Sternenzelt! Über Sternen
muß er wohnen.

Freuden der Natur. Alle Guten, alle Bösen
folgen ihre Rosenzahn. Küsse gab sie uns
und Reben. Einem Freund, geprüft im Tod,
Wollust ward dem Wurm gegeben. Und der
Cherub steht vor Gott! Froh, wie seine
Sonne strögen Durch des Himmels
pfeifigen Plan. Laufet, Brüder, eure
Bahn, Frei, wie ein Held zum Siegen. Seid
umschlungen, Millionen! Diesen Kuß der
ganzen Welt angehend! Die Welt ist
ein großer Saal, und alle Menschen
wollen ihn stützen. Und der Millionen
Ährte die den Schöpfer. Wähe! Such!
ihn über'n Sternenzelt! Über Sternen
muß er wohnen.

主 催：鎌倉市芸術文化振興財団
〒247-0056 鎌倉市大船6-1-2 鎌倉芸術館
協 力：鎌倉音楽クラブ

10th Anniversary
鎌倉芸術館
KAMAKURA PERFORMING ARTS CENTER

鎌倉市民「第九」コンサート

ルードヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン：交響曲 第9番 二短調 op.125 《合唱》

Ludwig van Beethoven : Symphonie Nr.9 d-moll Op.125

- 第Ⅰ楽章 アレグロ・マ・ノン・トロッポ・ウン・ポーコ・マエストーゾ
(快速に、しかし速すぎないように、やや荘厳に) 二短調 4分の2拍子
- 第Ⅱ楽章 モルト・ヴィヴァーチェ (きわめて速く、いきいきと) 二短調 4分の3拍子
- 第Ⅲ楽章 アダージョ・モルト・エ・カンタービレ
(ゆっくりと、そしてきわめて歌うように) 変ロ長調 4分の4拍子
- 第Ⅳ楽章 プレスト (きわめて速く) 二短調 4分の3拍子

〈プロフィール〉



指揮 小泉ひろし

桐朋学園大学卒業。指揮を斎藤秀雄、オーボエを鈴木清三各氏に師事。卒業に際し音楽賞を受賞。卒業と同時に東京交響楽団副指揮者に就任する。第一回民音指揮者コンクール第三位入賞。1970年ウィーン国立音楽大学に入学、指揮をハンス・スワロフスキー、オペラをカール・エッティ、バロック音楽をヨゼフ・メルティンの諸氏に師事。71年、72年にオーストリアのオシアッフ国際音楽祭でクララ・ゲンフ

ルト国立管弦楽団を指揮。74年にはウィーン・トーンキエンストラ管弦楽団を指揮し好評を得る。卒業に際し、最優秀賞を受賞。94年10月にはメキシコに於ける日本音楽祭に招待され、メキシコ国立交響楽団を指揮し絶賛を博す。大阪シンフォニカーの指揮者を創設期から10年間務め、そのレヴェル・アップに大きく貢献するほか、とくに宗教音楽のジャンルにおいては優れた解釈による格調高い演奏が高く評価されている。現在は、演奏活動の傍ら、東京芸術大学、桐朋学園大学、フェリス女学院大学の講師として、後進の指導に当たり、多くの優秀な人材を世に送り出している。

管弦楽 鎌倉交響楽団

市民のアマチュア管弦楽団として昭和38年に発足。現在団員は学生から86歳までと幅広い年齢層にわたり、120名を超える。春と秋の定期演奏会、3月のファミリーコンサート、鎌倉市私立幼稚園協会による園児のための演奏会、年2回の団員による室内楽演奏会等。常任指揮者の古谷誠一氏のもと、鎌倉の音楽文化のリード役として活動を続けている。また、昨年は創立40周年であり、5月、10月に記念演奏会を行った。鎌倉市民「第9」コンサートへの参加は今年2回目となる。

合唱 鎌倉市民「第九」コンサート合唱団

今年、公募で集まった市民合唱団。10月より10数回の練習を重ねて本日を迎える。

合唱指揮 小泉ひろし・工藤 博・亀田眞由美

合唱練習ピアノ伴奏 徳江真理子



ソプラノ 亀田眞由美

東京芸術大学別科修了後、洗足学園大学音楽科卒業。児島百代、中村浩子、奥村淑子、中山梯一の各氏に師事。個性的なコロラトゥーラ・ソプラノとして「魔笛」の夜の女王役でデビュー以来、二期会公演をはじめ多くの公演に出演している。「後宮よりの逃走」のコンスタンツェ、「ボントの玉ミトリダーテ」のアスパージャ、「劇場支配人」のヘルツ夫人、「シンデレラ」(マスナー)の妖精の女王等のコロラトゥーラの難役に加え、「ドン・ジョヴァンニ」「オルフェオとエウリディチェ」「ヘンゼルとグレーテル」「金閣寺」(日本初演)等に出演している。1988年より海外都市10ヶ国でリサイタルやコンサートに出演。また「第九」や宗教曲等の独唱の他、リサイタルも回を重ね、日本歌曲の分野でも意欲的に活動している。現在、二期会会員、洗足学園大学講師。



アルト 桑田葉子

国立音楽大学声楽科卒業。二期会オペラスタジオ28期終了。児島百代、戸田敏子、辻宥子、佐々木成子、小串昭子諸氏に師事。「フィガロの結婚」マルチェリーナで二期会デビュー。「コシファンツェ」ドラブラで横浜シティオペラデビュー。以降、「カルメン」メルセデス、「ヘンゼルとグレーテル」眠りの精、母親、「魔笛」第1、第2ダーメ「アルバート・ヘリング」母親、「金閣寺」(日本初演)姫婦などに出演。ソリストとして新日本フィルハーモニー定期演奏会(朝比奈隆、小沢征爾指揮)他、数多くのオーケストラと共演。「第9」、モーツァルトの「レクイエム」などでソリストを務める。2001年、第3回日本演奏家コンクール第2位(1位なし)入賞。二期会、横浜シティオペラ各会員。



テノール 君島広昭

洗足学園大学卒業。同大学付属オペラ研究所終了。第27回、第31回日伊コンコルト入選。オペラでは「後宮からの逃走」ペドロロ「コシ・ファン・トゥッテ」フェランド「魔笛」タミーノ「ドン・ジョヴァンニ」オッターヴィオ「フィガロの結婚」パジリオ「蝶々夫人」ピンカートンゴロー「メリーウィドウ」カミーユ「こうもり」アルフレード「アルバート・ヘリング」アルバート・ヘリング市長「カルメン」ドン・ホセ「夕鶴」与ひょう「テレジアスの乳房」息子「泣いた赤鬼」赤鬼 村人「北風と太陽」旅人「モモ」ニノ等を歌う。また、「第9」や「メサイア」「レクイエム」等の宗教曲でも活躍。ブラームス・シューマンのアンサンブル曲でも好評を博す。洗足学園大学講師。横浜シティオペラ運営委員。



バリトン 工藤 博

東京芸術大学卒業。同大学院修了。第40回日本音楽コンクール第3位入賞。1984年、藤沢市民オペラ「ウイリアムテル」のタイトルロールの好演に対し、第12回ジロー・オペラ賞受賞。1974年二期会「魔弾の射手」のキリアンでオペラデビューの後、これまでにヴェルディのヤーゴ、マクベス、ジェルモン、リゴレット他、プッチーニのシャープレス、スカルピア、マルチェロ他、ワーグナーのハーゲン、アルベリヒ、オランダ人、クリングゾル他、フランスオペラのメフィストフェレス、ミラクル、エスカミリオ他、モーツァルトの各オペラ等、キャラクターバリトンの多くに主演した。近年新国立劇場開場と共に「ローエングリン」「アラベラ」「罪と罰」「夕鶴」「サロメ」に出演。一方、「メサイア」「第九」他のコンサートソロを好評のうちに務め、又シューベルト、ラヴェル、マーラー、中田嘉直、林光の歌曲を意欲的に発表する。サロンコンサートの企画演奏にも積極的に取り組んでいる。フェリス女学院大、愛知県立芸大講師。二期会会員。

ベートーヴェン：交響曲 第9番 二短調 Op.125 <合唱>

鎌倉芸術館年末恒例の「第九を歌うコンサート」公演にむけて、300名を超える仲間たちが集い、10月より十数回の練習を重ねてきました。今年は市民スタッフ8人が練習そして本日の公演を支えます。

「ともに声を合わせ、心を合わせて」作り上げてきた合唱の成果を、今日ここ「鎌倉」で披露いたします。指揮・小泉ひろし、管弦楽・鎌倉交響楽団、ソリスト・亀田眞由美、桑田葉子、君島広昭、工藤博による「第九」の世界をどうぞお楽しみください。

頌詩《歡喜に寄す》 ODE 》 AN DIE FREUDE 《

原詩：フリードリヒ・フォン・シラー

Friedrich von Schiller

対訳：喜多尾道冬

O Freunde, nicht diese Töne!
Sondern laßt uns angenehmere anstimmen
und freudenvollere!

Freude, schöner Götterfunken,
Tochter aus Elysium,
Wir betreten feuertrunken,
Himmlische, dein Heiligtum!
Deine Zauber binden wieder,
Was die Mode streng geteilt;
Alle Menschen werden Brüder,
Wo dein sanfter Flügel weilt.

Wem der große Wurf gelungen,
Eines Freundes Freund zu sein,
Wer ein holdes Weib errungen,
Mische seinen Jubel ein!
Ja, wer auch nur eine Seele
Sein nennt auf dem Erdenrund!
Und wer's nie gekonnt, der stehle
Weinend sich aus diesem Bund.

Freude trinken alle Wesen
An den Brüsten der Natur:
Alle Guten, alle Bösen
Folgen ihrer Rosenspur.
Küsse gab sie uns und Reben,
Einen Freund, geprüft im Tod;
Wollust ward dem Wurm gegeben,
Und der Cherub steht vor Gott!

Fröh, wie seine Sonnen fliegen
Durch des Himmels prächt'gen Plan,
Laufet, Brüder, eure Bahn,
Freudig, wie ein Held zum Siegen.

Seid umschlungen, Millionen,
Diesen Kuß der ganzen Welt!
Brüder! Über'm Sternenzelt
Muß ein lieber Vater wohnen.
Ihr stürzt nieder, Millionen?
Ahnest du den Schöpfer, Welt?
Such' ihn über'm Sternenzelt!
Über Sternen muß er wohnen.

ああ友よ、そんな調べではだめなのだ！
声を合わせてもっと楽しくうたおうではないか、
もっとよろこびにあふれる調べで！

よろこび、それは神から発する美しい火花、
楽園の遣わす美しい娘
わたしたちは熱い感動の思いに突き動かされて、
気高いよろこびよ、おまえの国へ歩み入る！
おまえは世のしきたりがつめたく引き裂いたものを、
不思議な力でふたたびとけ合わせる。
おまえのやさしいつばさに懐かれると、
すべてのものは同胞となる。

心の通じ合える真友を得るといふ
むずかしい望みのかなったものも、
気だてのやさしい妻をめとることができたものも、
よろこびの気持ちを声に出して合わせよ！
そうだ、この広い世のなかでたったひとりでも
心をわかち合える相手がいると言えるものも和すのだ！
だがそれさえできぬものは、よろこびの仲間から
ひと知れずみじめに去って行くがよい。

すべてのものは自然の胸にいだかれ、
その乳房からよろこびをいっぱい飲んでいよう。
操正しいひとと邪なものもみなすべて
ばらの香りに誘われて自然のふところへ入って行く。
自然はわたしたちにくちづけとぶどうと
死の試練をくりぬけた友を与えてくれた。
快樂などはうじ虫に投げ与えてしまうと、
知と正を司る天使が神のまえに姿をあらわす！

よろこびにあふれて、ちょうど満天の星々が
壮大な天の夜空を悠然とめぐるように、
同胞よ、おまえたちも与えられた道を歩むのだ
よろこびに勇み、勝利の大道を歩む英雄のように。

たがいにいだき合うのだ、もろびとよ。
全世界のひとたちとくちづけをかわし合うのだ！
同胞よ！満天の星々のかなたには
父なる神はかならずやおわしますのだ。
そうすればおまえたちはひれ伏すか、もろびとよ。
この世のものたちよ、おまえを創造した神がわかるか。
満天の星々のかなたに神を求めよ！
星々のかなたに神はかならずやおわしますのだ。

